

十勝農業の現状と畜産の役割

須田 孝 雄
(十勝農協連)

1. 地域の概要

1-1 位置及び地勢 (図1)

北海道東部に位置し、西に日高連峰をはさんで日高・上川地方に、北は大雪山系と阿寒の山々を間に、上川・北網地方に、東は白糠丘陵をはさんで釧路地方に隣接し、南は太平洋を望む道内屈指の平野である。

東西110.4 km、南北163.3 kmの広がりを持ち、面積10,830 km²は全道の13.8%を占め、支庁中最も広い。

三方を山に、一方を海に囲まれ盆地状を成し、大雪山系十勝岳にその源を発する十勝川は平野を西から南東に貫流、太平洋に注いでいる。

1-2 土 壤

耕地の約60%は火山性土で、大きく乾性型の褐色火山性土と湿性型の黒色火山性土に分けられる。前者は乾性地に火山灰が堆積したもので腐植含量は少なくやせている。後者は湿地に火山灰が堆積したもので、腐植含量は多いが排水不良。

1-3 気 象

日本海側やオホーツク海側と比べ、10月～4月の日照時間長く、晴天の日が多い(表1)。十勝においても内陸部と、山麓・沿海部とでは、積雪・凍結条件が異なり、又・農耕期間の気象条件にも差がみられる(図2)。

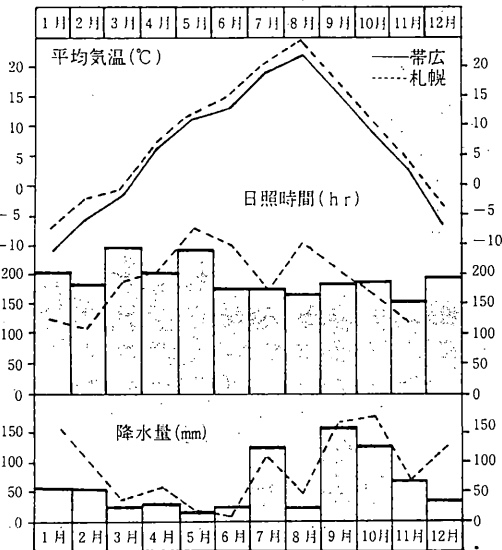


表1. 気象経過 (昭和59年)

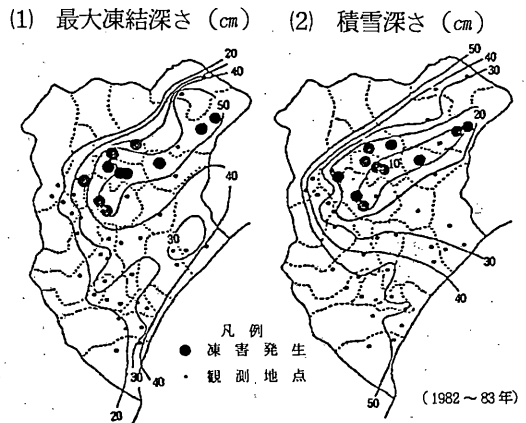
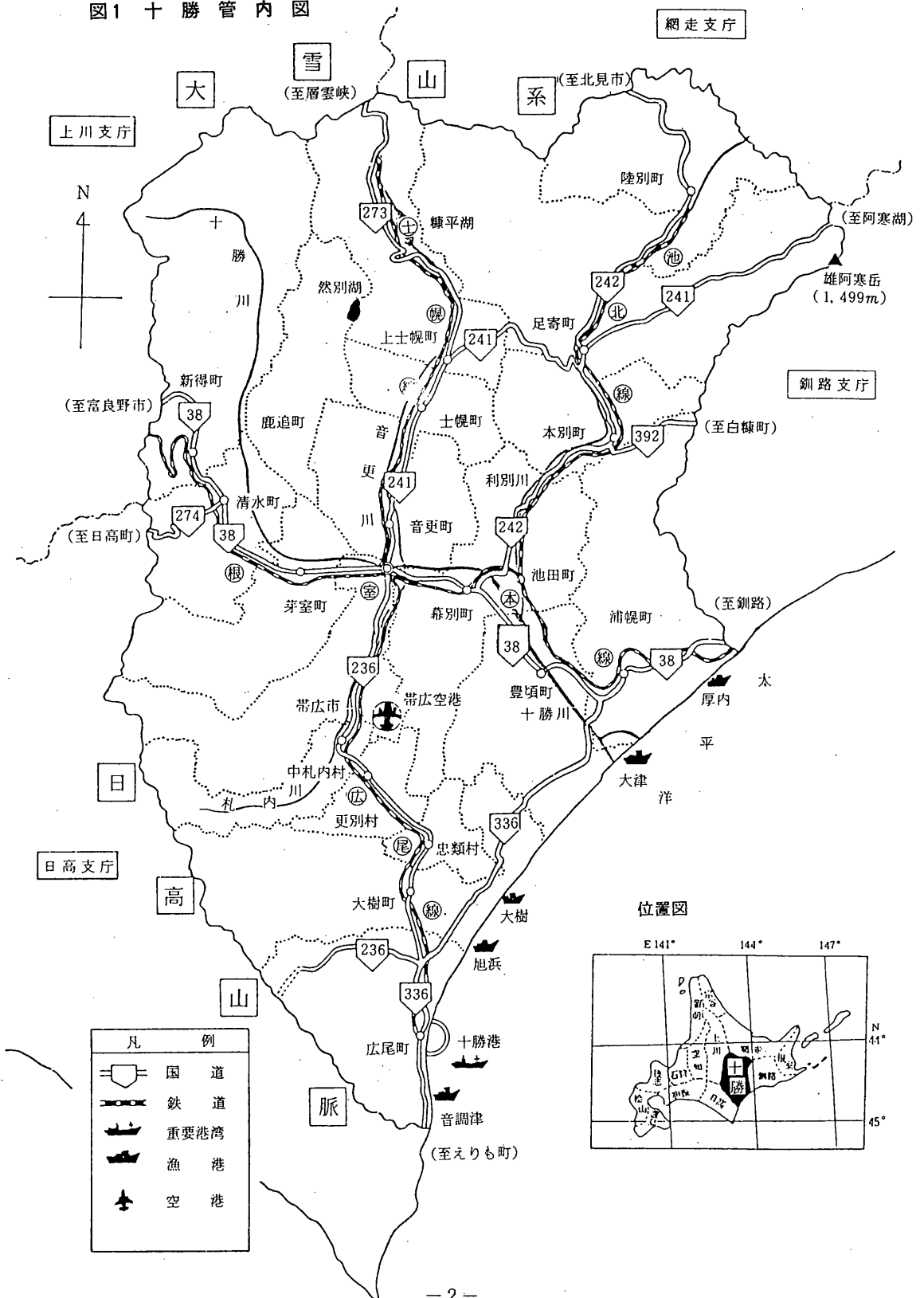
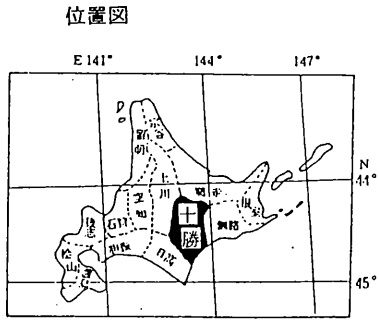


図2 凍結深・積雪深の分布 (1982～83年)

図1 十勝管内図



凡	例
	国道
	鉄道
	重要港湾
	漁港
	空港



2. 農業構造

2-1 農家戸数

昭和30年代より、昭和50年まで、オイルショック（昭和48年）等で多くの離農をみたが、近年は鈍化傾向（図3）にある。昭和50～54年までは年間1.41%で、55年以降は1.1～1.3%の減少傾向である。

専業別割合については近年大きな動きはみられず専業が約75%を占め、全道平均43%に比べ著しく高い。農業従事者の年齢別構成は

年々高齢化の傾向にある（図4）。

2-2 耕地面積

管内の農用地面積は255,000 ha（昭和59年）であり、内普通畑が71%、牧草地在27%を占め、特に普通畑が55年以降9,200 ha増加しているのに対し、水田面積は50%近い減少（表2）。作物別では58年の冷湿害のため、小豆が減少したが、耐冷作物の小麦、馬鈴しょ、てん菜は増加（図5）。

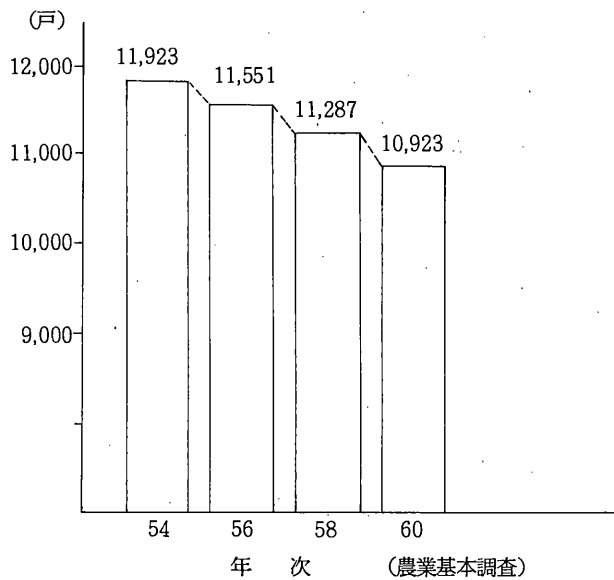


図3 農家戸数の推移

年次	16～29才		30～59才		60才以上	
	男	同女	男	同女	男	同女
54年	11.1%	8.8	29.5	31.0	10.9	8.7
56	10.7	8.0	30.1	31.3	11.1	8.9
58	10.4	8.0	28.9	29.7	12.2	10.8
60	9.4	6.7	29.1	30.9	12.4	11.5

図4 農業従事者年齢別割合の推移 (農業基本調査)

表2 耕地面積の推移

(単位：ha)

年	田	畑	畑			耕地計	1戸当たり 面積
			普通畑	樹園地	牧草地		
50	5,560	225,800	172,900	34	52,900	231,300	18.1
54	5,420	235,500	172,400	38	63,100	240,900	19.9
55	5,190	238,600	172,800	48	65,800	243,800	20.8
57	4,260	244,300	177,300	88	66,900	248,600	21.6
58	3,610	249,000	180,800	91	68,100	252,600	22.0
59	2,950	252,000	182,000	89	69,900	255,000	
構成比(%)	1.2	98.8	71.4	—	27.4	100	
全道	261,300	916,000	421,100	4,540	490,400	1,177,000	10.5
構成比(%)	2.2	7.8	3.5	0.4	4.1	10.0	

(農林水産統計)

(単位：%)

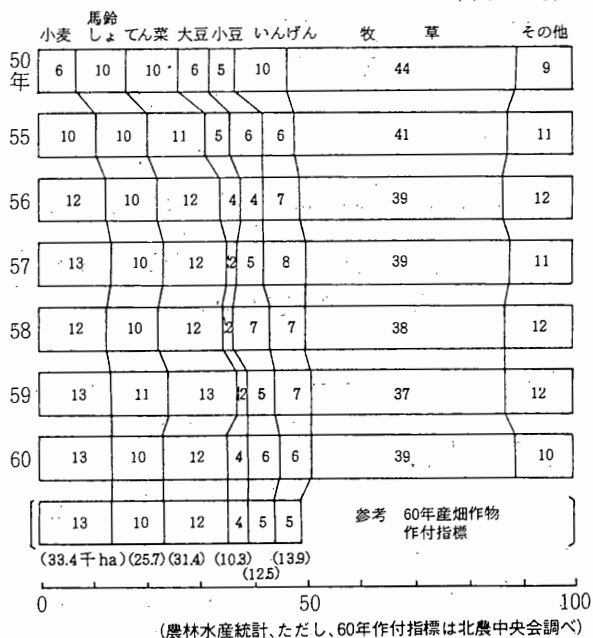


図5 主要作物の作付率の推移

3. 農業生産

3-1 馬鈴しょ (図6)

品種別作付割合では食用品種の「メイクイン」, 澱粉原料用の「紅丸」, そして, 加工食品用の「トヨシロ」の順で, これら3品種で全体の60%を占める。

用途別生産量では澱粉原料用が約50%を占める。

3-2 てん菜 (図7, 表3)

単胚種の普及・移植・収穫作業の機械等で省力化が進み, 基幹作物として生産されている。しかしながら, 消費の減退, 異性化糖, 新甘味料の進出など厳しいものがあり, 今後共続くと考えられる。

本年度より糖分取引制度へ移行した。

副産物のビートパルプは乳牛用飼料として利用されている。

3-3 小麦 (図8)

機械化一貫体系の普及・生産者価格の引上げ等により, 昭和56年に3万haが作付され, 基幹作物として定着している。需要は主として麵用に使用, 秋播小麦としては「チホコムギ」が「チホうどん」として既に製造市販され高い評価を受けている。

3-4 豆 類 (図9・10)

3-5 酪 農 (図11)

3-6 肉 牛 (図12)

3-7 豚 (図13)

3-8 採卵鶏 (図14)

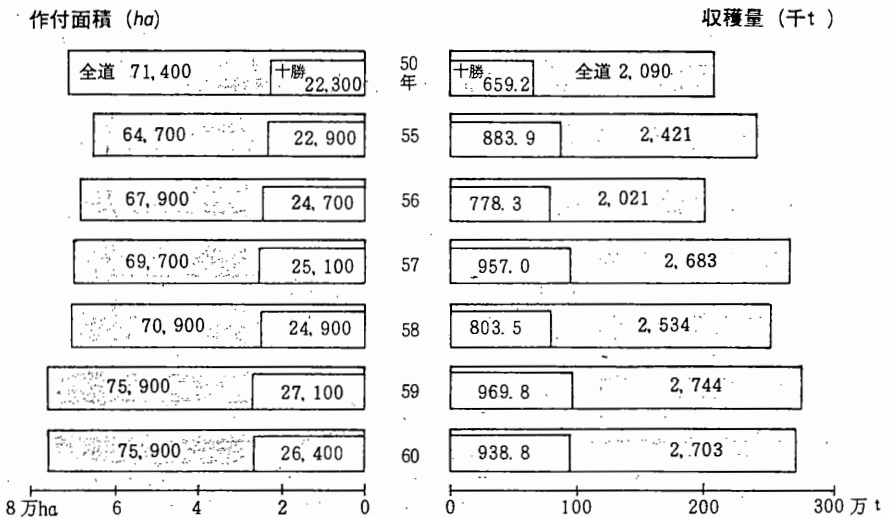


図6 馬鈴しょの作付面積と収穫量の推移

(農林水産統計)

表3 原料てん菜処理状況 (昭和60年)

	日 甜 芽 室	北 糖 本 別	ホクレン清水
A 作付面積 (ha・%)	1741153(544)	783395 (245)	674432 (21.1)
B 生産量 (t・%)	96256239(547)	44930389 (255)	34744301 (198)
C 公称処理能力	7.083t/日	5292 t/日	1,950 t/日
D ha 当 収 量	5528 t	5699 t	5152 t
E 平均根中糖分 (59年)	160%	519 %	164 %
F 製造能力からみた面積	19,750 ha	7,620 ha	5,840 ha
G A/F	88.16%	102.81 %	115.48 %

(中央会調)

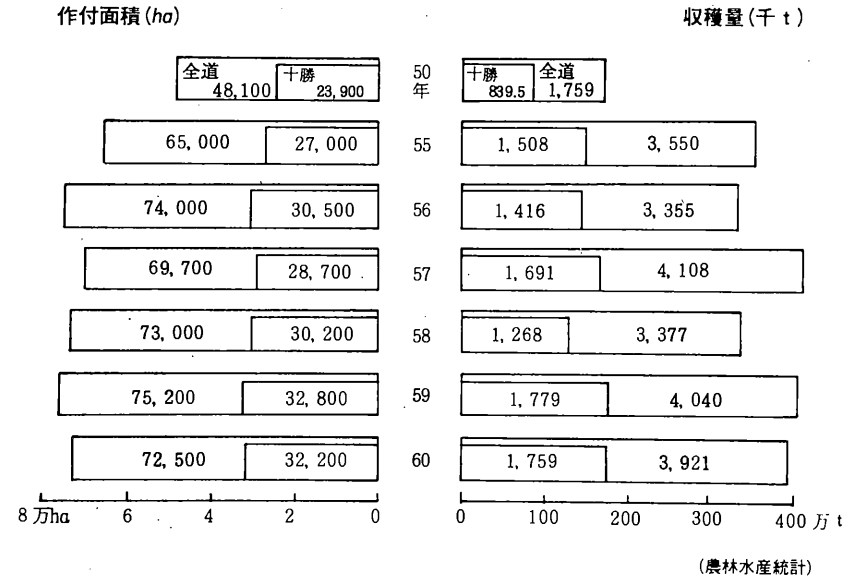


図7 てん菜の作付面積と収穫量の推移

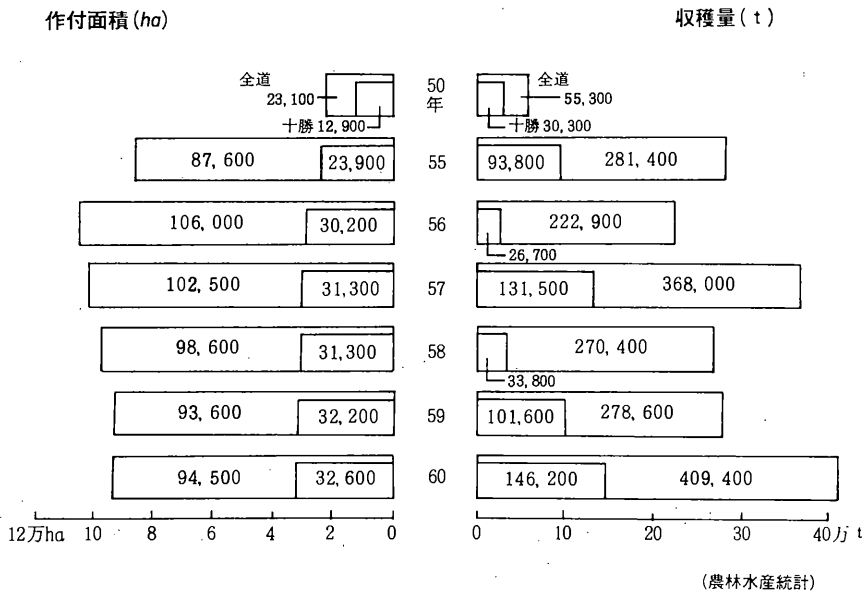
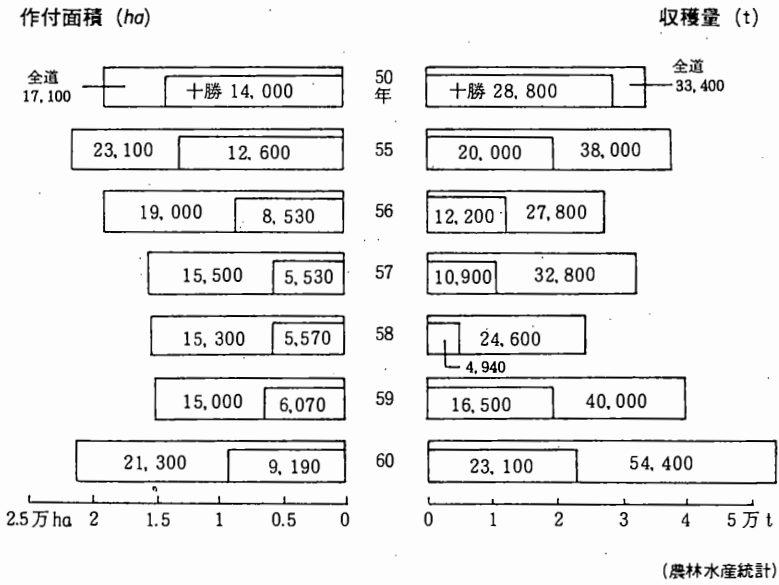


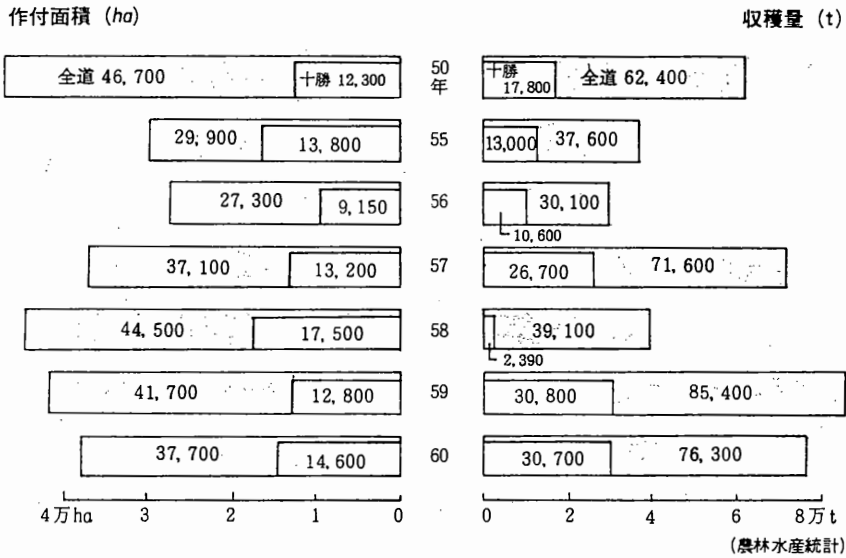
図8 小麦の作付面積と収穫量の推移

図9 豆類の作付面積と収穫量の推移

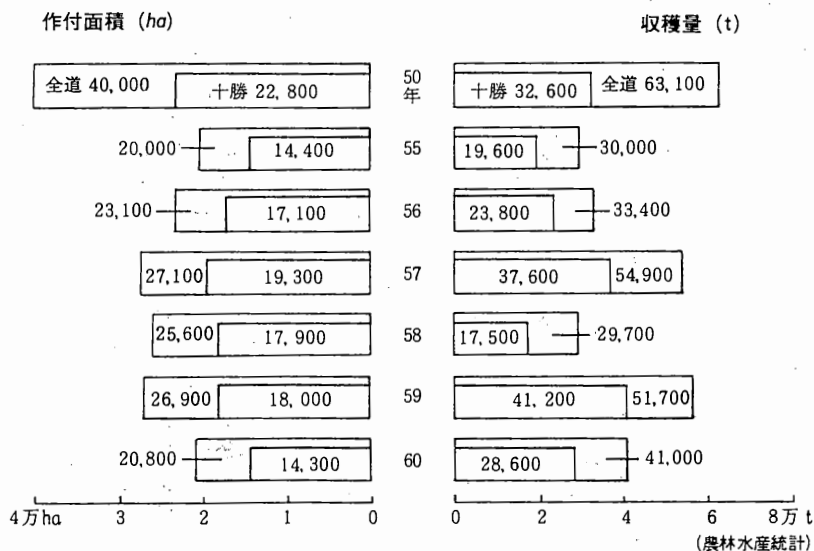
9-1 大豆



9-2 小豆



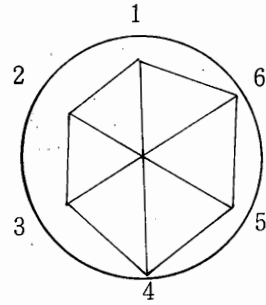
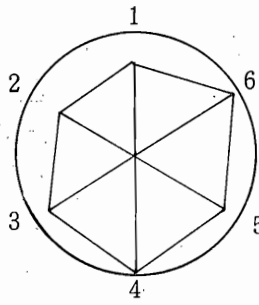
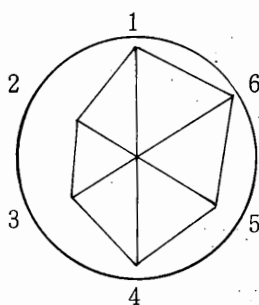
9-3 菜豆



ア, 大豆

イ, 小豆

ウ, 菜豆



基本技術の内容

1. 土壌 pH : 基準値の下限以上のは場率
2. 豆作率 : 作付率40%以下の割合
3. 前作が豆以外の作物の割合 (輪作が行なわれている条件で)
4. 種子消毒の実施率
5. 10 a 当株数 : 8,000 株に対する平均株数の割合
6. 菌核病の発病程度が少以下のは場率

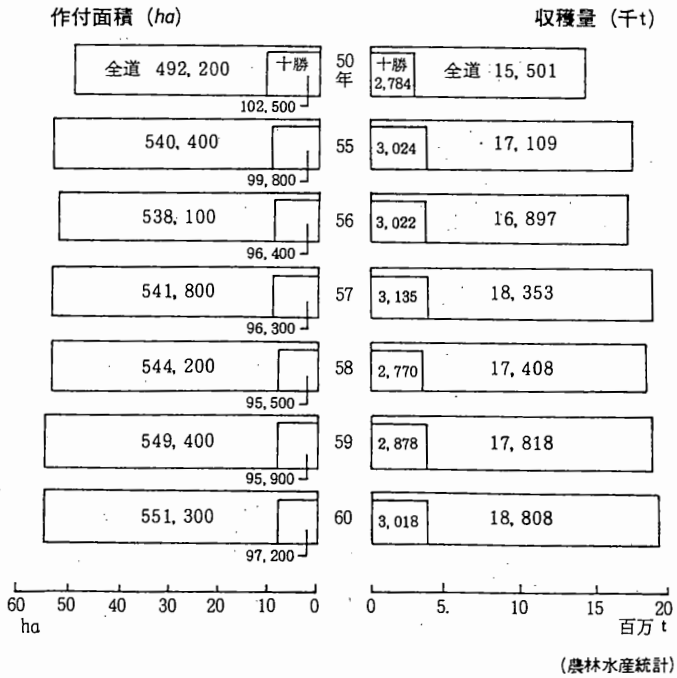
注) ① 2~4は農家戸数率

(十勝農試)

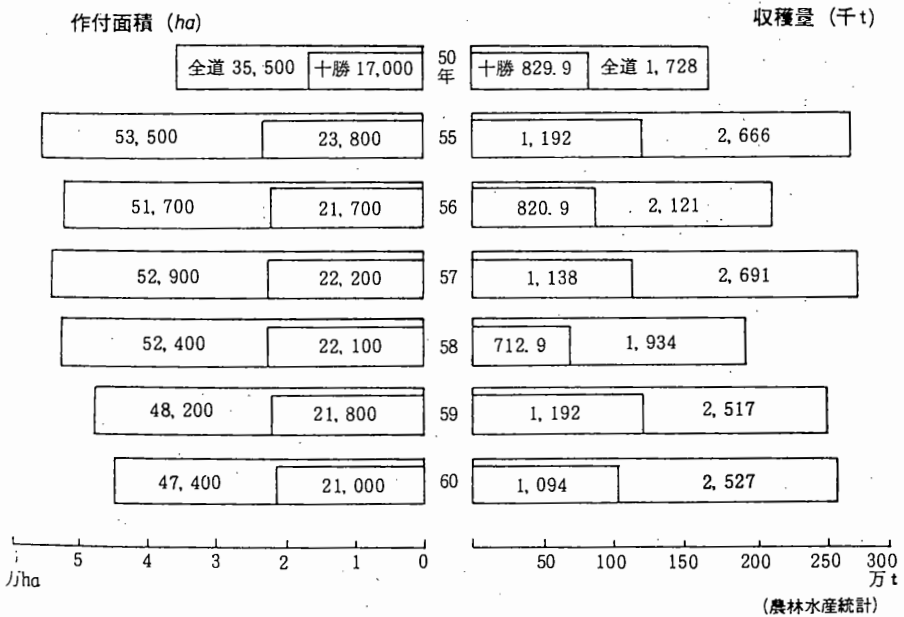
② 昭和59年度十勝農作物増収記録会審査報告より作成

図10 豆類における基本技術の到達段階

図11 酪農関係

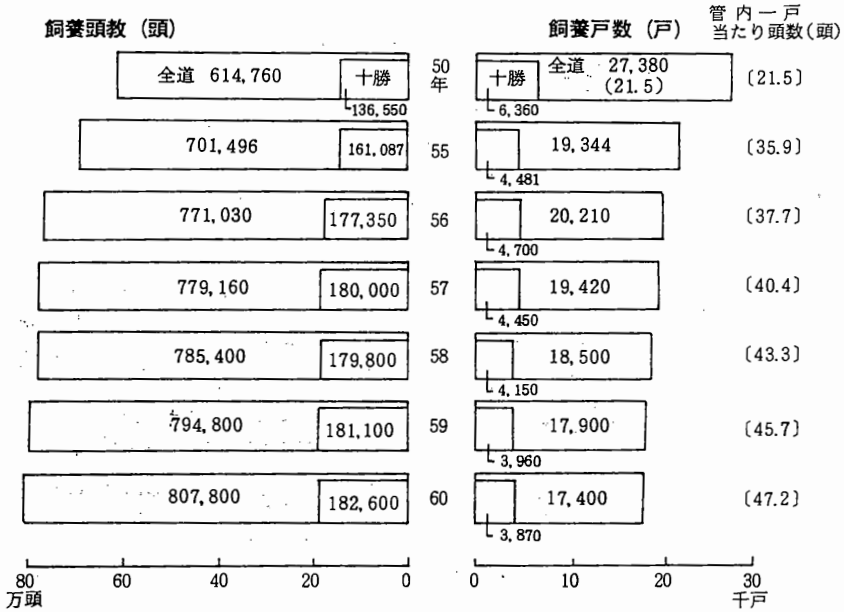


11-1 牧草の作付面積と収穫量の推移



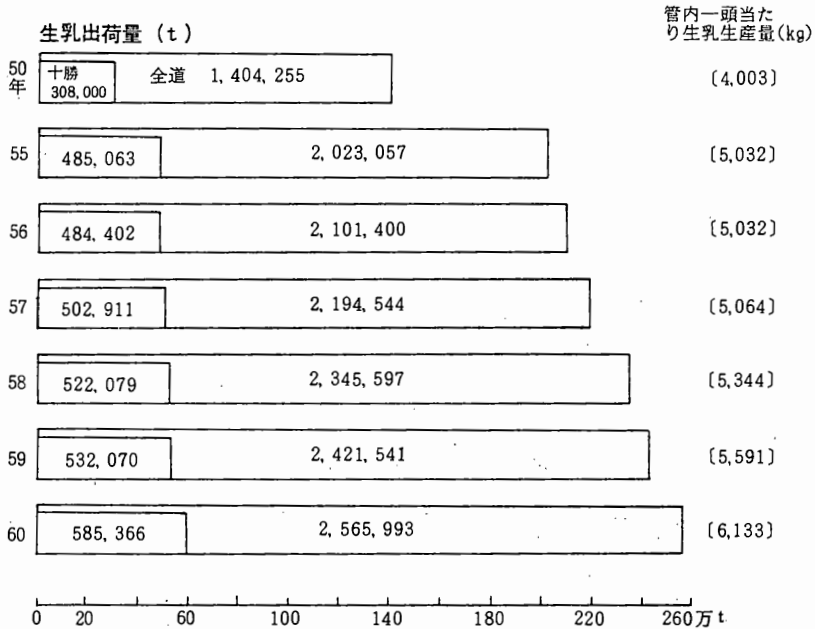
11-2 サイレージ用トウモロコシの作付面積と収穫量

11-3 乳牛飼養頭数と戸数



(農業センサス)(農林水産統計)

11-4 生乳出荷量の推移



(十勝支庁農務課調べ)(十勝農協連調べ)

11-5 飼養規模別戸数の推移

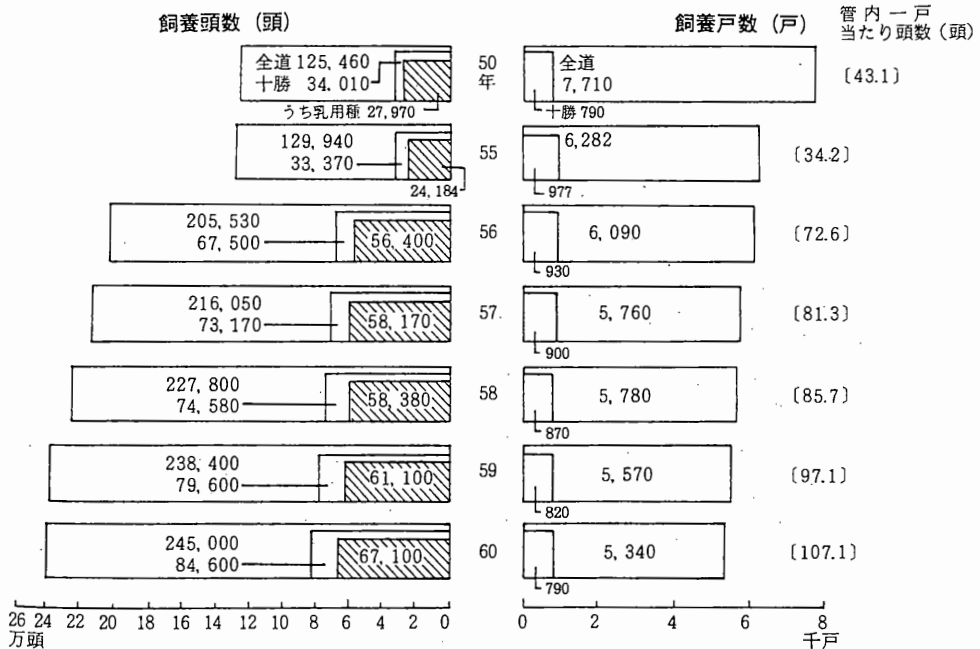
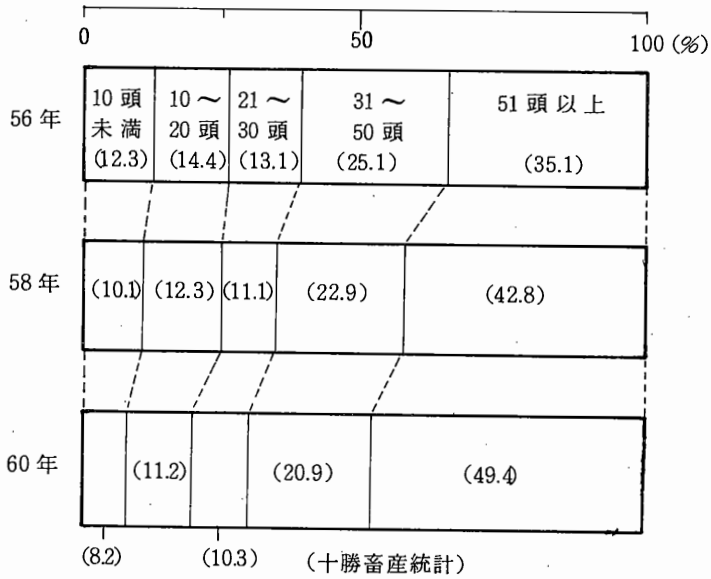


図12 肉牛の飼養頭数と戸数の推移 (農業サンセス) (農林水産統計)

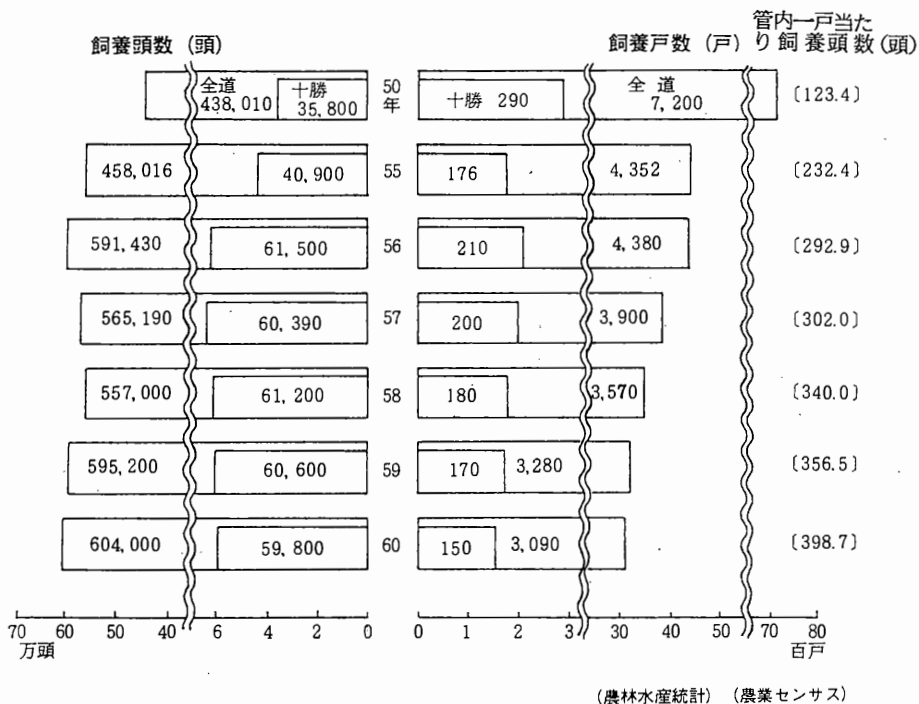


図 13 豚飼養頭数と戸数の推移

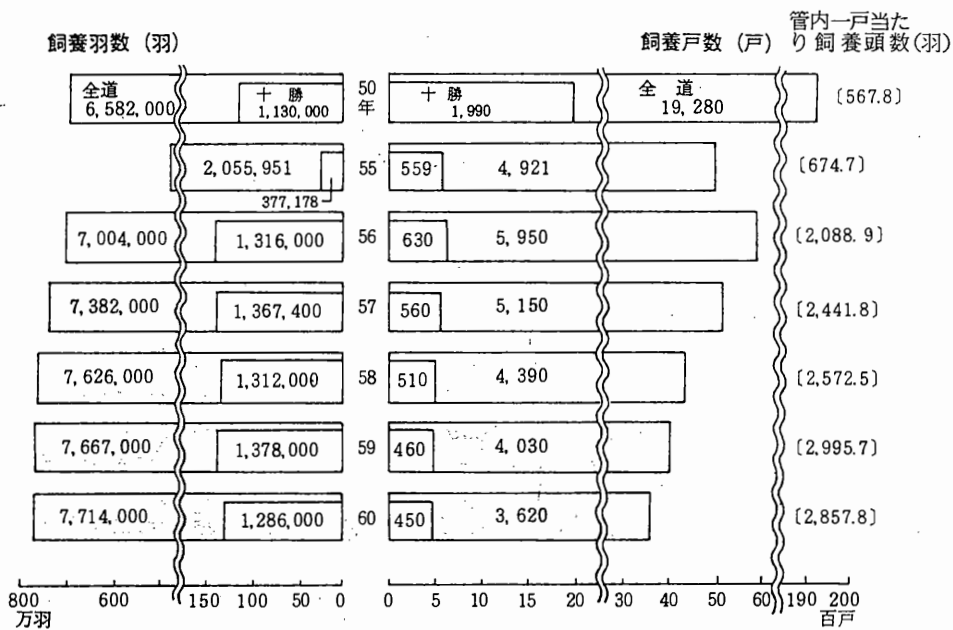


図 14 採卵鶏飼養羽数と戸数の推移

4. 農業粗生産額

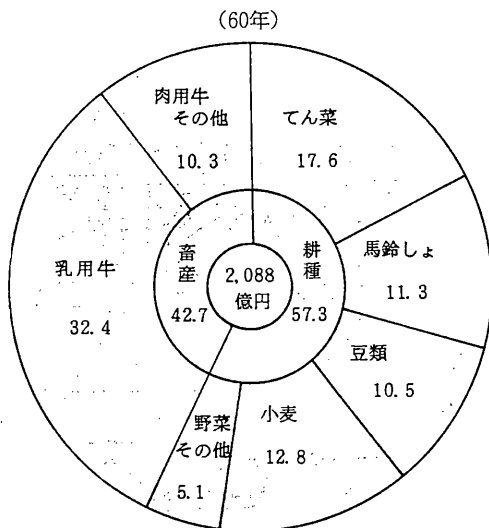
粗生産額では59年に2,000億円を突破し、60年度は2,088億円に達し、前年比103.4%の伸びを示した。
作目別では、生乳540億円、てん菜370億円、肉

畜・個体350億円、小麦270億円、馬鈴しょ240億円、豆類220億円の順となり、いずれも全道では首位を占め、基幹的作目として位置づけられている。

図15 農業粗生産額と作目別割合 (単位:百万円、%)

区分	粗生産額	耕種		畜産	
		生産額	構成比	生産額	構成比
50年	105,682	60,433	57.2	45,249	42.8
55	171,242	96,365	56.3	74,877	43.7
56	176,183	101,368	57.5	74,815	42.5
57	200,925	122,728	61.1	78,197	38.9
58	155,616	74,460	47.9	81,156	52.1
59	201,909	118,896	58.9	83,013	41.1
59.全道	1,079,872	646,954	59.9	432,811	40.1
全道に占める十勝の割合(%)	18.7	18.4	-	19.2	-
[60]	208,770	119,673	57.3	89,097	42.7

※59年全道生産額には、耕種・畜産のほか、加工農産、養蚕部門107(百万円)が含まれている。



(十勝支庁農務課推計)

5. 今後の対策, 方途

参考資料: 図16 十勝地区農業基本構想

(十勝地区農協組合長会, 北農中央会帯広支所)

図17 十勝地域農業情報システム基本体系図



